

「東北地方の多雪環境に適した低コスト再造林システムの開発」
総括セミナー
ーここまでやれる再造林の低コスト化ー東北地域の挑戦ー
(開催報告)

農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業「東北地方の多雪環境に適した低コスト再造林システムの開発」による総括セミナーが平成27年11月24日(火)に岩手県民情報交流センターアイーナホール(盛岡市)において開催されました。

当日は、林野庁、東北森林管理局・森林管理署等の国有林、各県公設林試、森林組合等、県・市町村関係、各種団体、民間企業・個人、報道機関及び当初関係者併せて134名の出席がありました。

東北地域での再造林作業の低コスト化技術を開発するため、コンテナ苗利用、低密度植栽、下刈り軽減、一貫作業システム導入の4つをキーポイントとして、農林水産技術会議の農食研予算で3年間の研究が実施されており、毎年開催されてきましたセミナーですが、最終年である今回4回目のセミナーでは、これまでの成果を取りまとめて報告されました。

研究成果としては、コンテナ苗の多雪地域での活着率は95%と高く、また植栽初期の苗木の形状比を60前後にすることで植栽後の樹高成長が良くなること、スギとカラマツの植栽本数は現状よりもかなり減らせる可能性があること、下刈りコストは従来の方法よりも50~60%程度削減可能であること、一貫作業で重機による省力地拵えを実施することにより一層の低コスト化が図れることが報告されました。

報告の後に3名のパネリストを迎えて報告へのコメントと今後の取組に関する意見をいただきました。

パネリストは大貫肇氏(東北森林管理局次長)、吉田正平氏(吉田樹苗代表:岩手県山林種苗協同組合副理事長)、木村和彦氏(弘前地方森林組合参事)、司会は東北支所長の駒木が務めました。

午前10時から午後4時までの長丁場のセミナーでしたが、重要なテーマであったためか参加者の関心も高く活発な質疑が交わされた。また、NHK盛岡放送局が取材に来ており、駒木支所長へのインタビュー(なぜ再造林が必要なのか等)とセミナーの様子が同日夕方と夜の2回、県内ニュースの時間帯に放送されました。

セミナー参加者に対してアンケート調査を実施した結果、コンテナ苗の活着、一貫作業、下刈り軽減、ワラビのカバークロープ機能、コストシミュレーション等、ほぼ全体に亘って有益な報告であったとの感想でした。また、今後とも情報発信を期待するという要望が多く、こうした要請に現地研修会やミニシンポジウム等を今後も継続的に行うことにより成果を普及させる必要があると感じました。

ご来場の方々には、お忙しいところお越しいただき、ありがとうございました。

